ルカの福音書　54 回
主の祈り
ルカ 11：1～4

1. はじめに
   (1) 文脈の確認
   ①イエスのガリラヤ地方での奉仕（ルカ 4：14～9：50）
   ②ルカ 9：51 からエルサレムへの旅が始まった（ルカ 9：51～19：27）。
   ＊エルサレムへの旅という枠組みの中に、種々の教えを配置している。

   (2) 直近の文脈
   ①派遣された 70 人が帰還した。
   ②イエスは、弟子としていかに生きるべきかを教えた。

   (3) ルカ 10：25～11：13 は、1 つのブロックである（ルカだけの情報）。
   ①隣人との関係－良きサマリア人のたとえ（10：25～37）
   ②イエスとの関係－マルタとマリア（10：38～42）
   ③父なる神との関係－主の祈り（11：1～13）
   ＊①は隣人愛に関する教えである。
   ＊②と③は神への愛に関する教えである。

   (4) 注目すべき点
   ①この箇所では、ルカは祈りというテーマに焦点を合わせている。
   ②マタイの福音書の「主の祈り」とルカの福音書のそれは、相当違っている。
   ③イエスは、祈りの重要性を何度も教えたのであろう。

2. アウトライン
   (1) 状況説明（1 節）
   (2) 第 1 区分（2 節）
   (3) 第 2 区分（3～4 節）

3. 結論：主の祈りのまとめ

主の祈りについて学ぶ。

Ⅰ．状況説明（1 節）

1. 1 節

Luk 11:1　さて、イエスはある場所で祈っておられた。祈りが終わると、弟子の一人がイエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」

(1) ルカがイエスの祈りに言及するのは、これで 5 回目である。

①3：21、5：16、6：12、9：18

②イエスは、弟子たちに手本を示した。

(2) 弟子たちは、自分たちの祈りの生活が不十分であることを認識した。

①弟子の一人が、イエスに祈りを教えてほしいと願った。

＊弟子の一人が願い、イエスがそれに答えているのは、ここだけである。

＊ルカは、祈りの重要性を伝えようとしている。

②弟子の一人は、祈りに関する教理的教えを求めたのではない。

③彼は、具体的な祈りのことばを求めたのである。

④イエスの弟子として、父なる神にどう祈れば良いのかを尋ねた。

(3) 他のユダヤ人のグループは、それぞれに独特の祈りのことばを持っていた。

①バプテスマのヨハネの弟子グループも、独特の祈りを献げていた。

②イエスの弟子たちの多くが、かつてはバプテスマのヨハネの弟子であった。

③彼らは、その時代のことを思い出したのであろう。

④そこでイエスは、彼らに祈りのことばを教えた。

⑤第 1 区分には 2 つの祈り、第 2 区分には 3 つの祈りがある。

Ⅱ．第 1 区分（2 節）

1. 2 節

Luk 11:2　そこでイエスは彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。／『父よ、御名が聖なるものとされますように。／御国が来ますように。

(1) イエスの意図は、このことばどおりに、くり返し祈ることである。

①マタ 6：9

Mat 6:9　ですから、あなたがたはこう祈りなさい。／『天にいます私たちの父よ。／御名が聖なるものとされますように。

②マタイでは、祈りの型が挙げられている。

③ルカでは、祈りのことばが挙げられいる。

(2)「父よ」という呼びかけ

①まず、父なる神に関心を向ける。

②ギリシア語の「パテーラ」、アラム語の「アバ」。
③これは、尊敬と親密さを表現する呼び名である。
④イエスは、神に対して「父よ」と呼びかけておられた（10：21）。
⑤弟子たちは、イエスとの関係のゆえに、「父よ」と呼びかけることができる。
⑥イエスと父の関係は、弟子たちと父の関係と同じではない。

(3) 祈りの内容は 2 つの部分に分かれる。
①第 1 の区分には、2 つの祈りが含まれる（被造世界に対する神の計画）。
②第 2 の区分には、3 つの祈りが含まれる（弟子たちの必要）。

(4) 第 1 区分の第 1 の祈り
①「御名が聖なるものとされますように」
＊誰もが、あなたの御名を聖なるものと認めますように。
②神の御名とは、神のご性質の総体である。
③神の評判が、すべての人の間で良いものとなりますように。
④これは、偉大な御業を行ってくださいという祈りである。

(5) 第 1 区分の第 2 の祈り
①「御国が来ますように」
＊御国が来たなら、神の御名は人々の間で聖なるものとされる。
②普遍的神の国は、常に存在している。
③御国とは、メシア的王国（千年王国）のことである。
＊旧約聖書に預言されている地上の王国である。
③御国はまだ来ていないので、今もこの祈りは有効である。

Ⅲ．第 2 区分（3～4 節）

1．3 節

Luk 11:3　私たちの日ごとの糧を、毎日お与えください。

(1) 第 2 区分の第 1 の祈り
①これは、弟子の必要が満たされるようにという祈りである。
②マタ 6：11 は、「今日」を強調している。

Mat 6:11　私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

②ルカ 11：3 では、「毎日」となっている。
③これは矛盾ではなく、補完的なものである。
④当時の人たちには、意味のある祈りであった。

⑤出 16：4

Exo　16:4　【主】はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたがたのために天からパンを降らせる。民は外に出て行って、毎日、その日の分を集めなければならない。これは、彼らがわたしのおしえに従って歩むかどうかを試みるためである。

⑥イエス時代の人たちは、日当によって生活するのが普通であった。

⑦現代人にとっては、自分が完全に神に依存していることを思い出す機会となる。

2. 4 節

Luk　11:4　私たちの罪をお赦しください。／私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します。／私たちを試みにあわせないでください。』」

(1) 第 2 区分の第 2 の祈り

①これは、神の赦しを求めるものである。

②ルカは、単純に「罪」（ハマルティア）ということばを用いている。

③マタイでは「負い目」（オフェイレマタ）ということばである（マタ 6：12）。

④イエスの弟子たちは、信仰と恵みによって罪が赦された。

⑤ここでの祈りは、父との関係を維持するためのものである。

⑥1 ヨハ 1：9

1Jn　1:9　もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

⑦他人の罪を赦すことができる人は、神の赦しを体験している人である。

⑧他人の罪を赦せない人は、神の赦しの意味を理解していない人である。

(2) 第 2 区分の第 3 の祈り

①「私たちを試みにあわせないでください」

②これは、神の守りを求める祈りである。

③これは、神が私たちを誘惑すると教えているわけではない。

＊神は、私たちを訓練するために、私たちを試みに遭わせることがある。

④これは、自分の弱さを認め、神の助けを求める祈りである。

⑤これは、緩叙法という修辞的的表現である。

＊否定的なことばを用いることによって、積極的な概念を表現している。

＊「良い」の代わりに「悪くない」というようなものである。

結論：主の祈りのまとめ

1. 祈りの土台

(1) 信者と父なる神の関係

①私たちは、キリストにあって父なる神を「父」と呼ぶことができる。

②キリストと父なる神の関係に似たものが、私たちに与えられている。

(2) 聖句

①ヨハ 20：17

Joh 20:17　イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついていてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないのです。わたしの兄弟たちのところに行って、『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとに上る』と伝えなさい。」

②ロマ 8：14～17

Rom 8:14　神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。

Rom 8:15　あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と叫びます。

Rom 8:16　御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。

Rom 8:17　子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

③ガラ 4：6～7

Gal 4:6　そして、あなたがたが子であるので、神は「アバ、父よ」と叫ぶ御子の御霊を、私たちの心に遣わされました。

Gal 4:7　ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神による相続人です。

2. 第 1 の区分

(1) 第 1 の区分の 2 つの祈りは、極めてユダヤ的なものである。

(2)「御名が聖なるものとされますように」

①これは、神の栄光が現れるようにという祈りである。

②聖書が書かれた目的は、神の栄光である。

(3)「御国が来ますように」

①御国とは、メシア的王国（千年王国）のことである。

②御国とは、旧約聖書に預言されている地上の王国である。

③御国はまだ来ていないので、今もこの祈りは有効である。

3. 第 2 の区分

(1)「私たちの日ごとの糧を、毎日お与えください」

①これは、現在の必要を求める祈りである。

②私たちには、自分が完全に神に依存していることを思い出す機会となる。

(2)「私たちの罪をお赦しください。私たちも私たちに負い目のある者をみな赦します」

①これは、過去の必要を求める祈りである。

②私たちは、信仰と恵みによって罪が赦された。

③父との関係を維持するために、信じてから犯した罪も赦される。

(3)「私たちを試みにあわせないでください」

①これは、将来の守りを求める祈りである。

②これは、自分の弱さを認め、神の助けを求める祈りである。